



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2017年11・12月
第319号

病院だより第319号 (2017年11・12月号)
 発行者 昭和大学藤が丘病院
 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
 発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛
 編集責任者 広報委員長 原田 浩史
 〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30
 Tel 045-971-1151

藤が丘病院形成外科診療科長就任にあたって

藤が丘病院形成外科 教授 門松 香一

このたび、藤が丘病院形成外科診療科長を拝命しました門松です。先日、昭和大学病院の病院だより巻頭言でも述べさせていただきましたが、今回形成外科学講座が創立50年を目前に、診療拠点を大学病院(旗の台)から藤が丘病院へ移転いたしました。移転が決定してからは慌ただしい日々が現在も続いておりますが、**建学の精神「至誠一貫」の“相手の立場に立って真心を尽くす”**を肝に銘じながら、できるだけ患者さんの利益を損することなく速やかに、かつ事故のないように着実にこのプロジェクトを進めております。我々形成外科医局員一同、このプロジェクトを契機に気持ちを新たにして、診療はもちろんのこと研究も最大限の力を発揮するべく努力してまいり所存です。



さて、この移転に伴い藤が丘病院の各科の先生方や職員の方には、これまでに経験したことのない多くのご無理を聞いていただき誠に恐縮しております。我々形成外科が藤が丘病院に拠点を持つことが、将来的に藤が丘病院のさらなる発展にどれくらい寄与できるか、計り知れないものがありますが、旗の台で培ってきた症例や経験をさらに発展させ、藤が丘病院の一員として誠心誠意尽くす覚悟しております。これまで昭和大学の形成外科は決して一枚岩での診療が行われてきたとはいえません。学長がよく述べられている「One 昭和」を目指すべく、藤が丘病院を筆頭に大学病院・北部病院・豊洲病院との連携も強化して、それぞれの地域にあった診療を目指すべく改変を今後行っていきます。藤が丘病院に昭和大学口唇口蓋裂センターが開設され、唇裂口蓋裂患者のさらなる治療の研究や患者さんへの利便性を追求しながら症例数を増やすことはもちろんであります。これまで昭和大学が日本一といわれてきた経緯は、決して口唇口蓋裂のみではなく、その他の一般形成外科、美容外科、乳がん手術後の再建でも力をいれてきて症例数を増やしてきたことにあります。しかし、各病院間の連携がうまくいかなくなるにつれて、症例数の偏りや昭和大学形成外科としての方向性がバラバラになり、結果的に他の施設の追従を許す結果となりました。ただ、形成外科全体の症例数は今でも日本ではト

ップにありますので、今回のプロジェクトにより症例数を減ざることがないようにしなければなりません。将来的には、老朽化した藤が丘病院の建て替え計画がありますので、今後は診療の拡大をはかりながら新病院の建設を、期待と希望を持ちながら待ちたいと思います。

この移転は昭和大学形成外科学教室50年の歴史の大きな変換点です。これからは私たち形成外科医局員だけでは成功へと導くことは不可能です。昭和大学および藤が丘病院の各科診療科の先生方をはじめ職員の方々には誠に申し訳ございませんが、今後ともご指導ご鞭撻、さらにご協力いただけるようお願い申し上げます。

藤が丘病院呼吸器外科診療科長就任にあたって

藤が丘病院呼吸器外科 准教授 北見 明彦

このたび昭和大学横浜市北部病院との併任で藤が丘病院の呼吸器外科診療科長を拝命いたしました。

私は昭和62年に昭和大学藤が丘病院外科に入局し、平成1年より同胸部心臓血管外科の所属となりました。当時血管外科が専門の堀豪一准教授と、呼吸器外科立ち上げのために赴任間もない鈴木隆講師(現昭和大学病院呼吸器外科教授)に師事し、胸部外科診療を開始しました。平成15年に昭和大学横浜市北部病院呼吸器センターに異動し、平成17年からの5年間は呼吸器外科責任者として診療業務にあたりました。平成23年以降は藤が丘病院と北部病院における呼吸器外科診療体制の改変に伴い、呼吸器センター長として赴任した鈴木隆教授と共に呼吸器外科部門の充実に励み、その結果、北部病院の呼吸器外科手術件数はほぼ倍増しました。



藤が丘病院の呼吸器外科診療に関しては、救命センターでの胸部外傷搬送患者に対応すべくオンコール体制の導入、藤が丘病院での緊急手術に対する対応、呼吸器外科外来の継続や呼吸器カンファレンスへの参加など、その体制を維持しています。この間、術者あるいは指導助手として経験した手術件数は肺悪性腫瘍 960例、縦隔腫瘍 245例、気胸嚢胞性疾患 840例などです。藤が丘病院の呼吸

器外科は平成 23 年以降定期手術を行っておらず、呼吸器内科をはじめとする各診療科にご迷惑をおかけしている状況であることは心苦しく感じております。

一方で、藤が丘病院からは年間 60 例前後の呼吸器外科手術紹介症例があり、その逆紹介も含め藤が丘病院と北部病院の呼吸器グループとしては大変良好な診療連携を築けており、この関係をさらに発展させることが今回診療科長に推薦していただいた私に与えられた責務の一つと認識しております。

今後は、昭和大学呼吸器外科のさらなる発展のため邁進していく所存であります。

昭和大学口唇口蓋裂センターの開設

昭和大学口唇口蓋裂センター センター長
教授 大久保 文雄

この度、昭和大学藤が丘病院内に口唇口蓋裂センターを開設する運びとなりました。この組織は1980年に当時の形成外科学講座主任教授であった鬼塚卓彌先生が中心となって、医学部・歯学部にまたがる日本で初めての診療グループを作ったことに始まります。名前は「昭和大学口蓋裂診療班:SCPT」といい、アメリカ口蓋裂学会にも登録されています。しばらくして、昭和大学病院内に唇裂口蓋裂センターとして認められ、統合的な治療のできる施設として各方面からの信頼を厚くしてきました。当時の新患数は5,000名を超え、年間の手術件数は平均500件で、2位の京都大学病院を300件以上上回っています。ここ数年は産婦人科、小児科の協力で、胎児診断が確定した時点で、母親の診察「プレネイタルビジット」を行うようになり、誕生前からの治療をも可能にできました。

この度、大学の方針で口唇口蓋裂センターは昭和大学直属の組織となり、診療の場を昭和大学病院から藤が丘病院へと移転することになり、形成外科の医局員は大学病院では経験したことのない、予約患者の移動、手術機械の準備、パンフレットの作成など、今までにない忙しさに見舞われました。また、いざ移転してみると、旧来の方法では想像もできなかった大小様々の問題が見つかり、その都度関係部署と調整を取りながら診療を続けているといった状態です。従来の環境で長年にわたって培われたノウハウを、ごく短期間で新しい環境に移植しようとしているわけですから無理からぬこととは思いますが、円滑に業務が進むよう鋭意努力して



おります。

とにかく、大切な患者さんに不利益を生じないように、形成外科の医局員は一丸となって頑張っています。どうぞご指導ご鞭撻を賜るようお願いいたします。

第24回 藤が丘地域連携フォーラム開催

平成 29 年 10 月 12 日(木) 当院にて第 24 回藤が丘地域連携フォーラムを開催いたしました。平成 23 年 9 月から始まりました藤が丘地域連携フォーラムも今回で 24 回目を迎えました。今回も大勢の皆様にお集まりいただき、地域医療機関の先生方や関係者の皆様 74 施設 101 名、昭和大学藤が丘病院関係者 128 名の合計 229 名の方々にご参加いただきました。

今回は下記の 2 演題の講演を行い、活発な質疑がなされました。講演会に引き続き立食形式での懇親会を開催しました。懇親会会場では各診療紹介パネル展示を行い、各テーブルとも、とても賑やかに会話が弾んでいました。ご参加いただきました皆様方には感謝申し上げます。



なお、次回、第 25 回地域連携フォーラムは、平成 30 年 1 月 11 日(木)に開催を予定しておりますので、多数のご参加を心よりお待ちしております。



＝講演会 次第＝

1)「新生された昭和大学形成外科学講座および昭和大学口唇口蓋裂センターの開設について」

昭和大学藤が丘病院 形成外科 教授 門松 香一

2)「腎臓病と向き合う」

昭和大学藤が丘病院 腎臓内科 教授 小岩 文彦

(藤が丘病院医療推進課 馬杉 朗子)

新型インフルエンザ等対策シミュレーション訓練を実施

平成29年10月19日(木)、藤が丘病院において新型インフルエンザ等対策 帰国者・接触者外来設置シミュレーション訓練(横浜市健康福祉局健康安全課共催)を実施しました。藤が丘病院は新型インフルエンザの海外発生期において、新型インフル疑似患者を診察する「帰国者・接触者外来」を発生状況に応じ設置する協定を横浜市と結んでいます。

今回の訓練では、仮設「帰国者・接触者外来」のプレハブを救命救急センター駐車場内に設置し、「事前相談のない患者が突然来院し複数患者を同時に診療することになった場合」を想定し、実際の仮設外来を



使用して従事者の感染防止策や模擬患者への対応を確認しました。当日は、横浜市内の医療関係者等55名が訓練の様子を見学し、見学者からは「新型インフルエンザが発生した場合に最も起こり得る事例であり、参考になった」などの感想が寄せられました。



10月24日には地域住民向けに、10月26日には医療従事者向けに、訓練映像の視聴と仮設外来の内覧会を行いました。藤が丘病院では、これからもこのような感染対策活動を地域・行政と連携し、実施してまいります。

(藤が丘病院クオリティーマネージメント課 堀田 晃子)

医療安全の日講演会開催

藤が丘病院では、2002年(平成14年)の医療事故を教訓として、安全文化の醸成を目指し「医療安全の日」が設けられ、今年で第13回を迎えました。

今回は、10月20日(金)に工学院大学建築学部建築デザイン学科 寛淳夫教授をお迎えし「物的環境から考える患者安全」をテーマに講演会を開催しました。

講演は、患者安全における施設環境の視点、患者の療養環境のリスクなどについて、ご自身の病院見学における実情を交えた分かり易いものでした。



【職員へお知らせ】

当講演会は、全職員の受講対象となっております。未受講者は、DVD視聴により必ず受講してください。DVD貸し出しを希望される方は、医療安全管理室へお越しください。

(藤が丘病院クオリティーマネージメント課 芹澤 一矢)

地域合同防災訓練を実施

11月19日(日)、総勢300名超が参加して大規模な昭和大学藤が丘病院・リハビリテーション病院地域合同防災訓練が実施されました。本年も青葉区役所、青葉警察署、青葉消防署、青葉区4師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会、神奈川県柔道整復師会)、緑区医師会、アマチュア無線非常通信協力会と合同で訓練を行い、模擬患者役として、日本体

育大学保健医療学部救急医療学科、湘中央生命科学技術専門学校の方々にご協力いただきました。



当日は、災害対策本部を設置し全体をコントロールする訓練、災害時に治療の優先順位をつけて治療に当たるトリアージ訓練、崩壊の恐れのある建物から別棟へ



入院患者を避難させる訓練を行いました。地域住民の方々にはトリアージ訓練を見学していただき、また、青葉消防署による心肺蘇生・AED 操作訓練と柔道整復師会による骨折の応急処置法の講習会を受講していただきました。さらに、青葉区とは MCA 無線による患者搬送調整訓練を実施しました。今後は訓練を通じて浮かんだ課題を院内で検討し、災害拠点病院としての使命を果たすための機能強化と地域連携の強化を図ってまいります。

(藤が丘病院管理課 和田 洋一)

さて当日、クリスマスツリーに変身したスタッフが、子どもたちの待つ会場に登場。みんなが大きな拍手で迎えたところで、知念 慶選手のブルーサンタさんが登場。みんなで「あかはなのトナカイ」と「あわてんぼうのサンタクロース」を元気よく歌った後、知念サンタから手渡しでこども 1 人 1 人にプレゼント。その後、トナカイに扮したふろん太君も合流して病棟を回り、会場に来られなかった子どもたちに、1 人 1 人プレゼントを手渡しました。



(藤が丘病院管理課 高橋 良治)

ブルーサンタが来ました

12月12日(火)にブルーサンタが藤が丘病院こどもセンターに来ました。

ブルーサンタとは、日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)に加盟する川崎フロンターレの選手がスカイブルーのサンタクロースに扮して、ケガや病気と闘っている子どもたちを少しでも笑顔にできるようにこども科病棟を慰問する活動です。聞くところによると、もう20年も続けている活動とのことでした。

土曜日の外来診療時間延長のお知らせ

平成29年4月より土曜日の外来診療時間を延長しております。

診療時間 8:30~17:00(変更前8:30~13:00)

診療科目 全診療科が対象ではございません。
詳細は各診療科にお問合せ下さい。

<http://www.showa-u.ac.jp/SUHF/outpatient/doctor/index2.html>

診療統計 2017年10月・11月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2017年10月	2017年11月	2017年10月	2017年11月
外来患者数	28,756人(1,150.2人)	27,838人(1210.3人)	3,936人(157.4人)	3,911人(170.0人)
入院患者数	16,163人(521.4人)	14,740人(491.3人)	5,353人(172.7人)	5,041人(168.0人)
紹介率	79.5%	81.1%	66.5%	68.4%
逆紹介率	55.0%	52.5%	73.5%	64.8%

《広報委員会委員》

原田 浩史	池田 裕一	佐々木春明	市川 度	小岩 文彦	川手 信行
芳賀 ひろみ	辻本 さなえ	猪股 里美	岩城 馨	長沼美代子	下田 遥菜
岡部 圭吾	大塚 凌	高橋 良治	(順不同)		